

夏休みフリーラン

高橋 俊充

7月18日～19日 やったぜ北海道上陸

小川とオレは合宿前のフリーランのために上野駅を20時10分、
出発した。そして翌日の13時40分、ついに北海道の土(実はアスファ
ルト)を踏んだのである。この時オレは日本の3つめの大きな島に
上陸したのだ。(まだ九州へは行かなかった) 運送船で来ると
本当に上陸したという実感がある。この点では四国と同じである。
上陸するとすぐに函館山へ行こうとした。函館では、電車であり
ながらどこへ連れていかれるかわからないという路面電車が11ま
だに走っているのだ。路面電車を降りるとロープウェイの方へ歩
き出した。そしてここで初めて北海道の土を踏んだのである。そ
うなのです。北海道では町の中に未舗装の道があるのだ。さすが
に北海道は遅れているなあ。函館山からの景色は素晴らしい。函
館市内及び函館港が見られれば許せる。ついでに下北半島、津軽
半島が見えればパーペキなのだ。今回は下北半島が見えず90点
でした。せ、かく北海道へ行ってここへ登るないのはもったいな
い話だ。ただし天気が悪ければ、ロープウェイ代と電車代が損な
いので行かない方が良いでしょう。

7月20日 神威岬は最高だ

朝6時5分、余市に着いた。上野を出発して36時間後、やっとこ
さランが始まった。それまでただ重い荷物に過ぎなかったものが

今からわれわれの交通手段となるのだ。まずは腹ごしらえと考
 えたがまだ食堂が開いておらず、パンを買うことにした。そしてバ
 ン屋へ行き例によってボトルに水をいれてもらおうとした所、わ
 ざわざ氷を入れてくれたのだった。今までにもあまりのボトルの
 活さに流してくれた人はいたが氷まで入れてくれた人はこれが初
 めてだ。その上なんとアイスコーヒーを飲ませてくれたのだ。な
 んと驚くべき人情である。これで北海道のイメージはまた上が
 った。そして今回のフリーランのメインである積丹半島へとまた
 元氣のある2人は出発したのである。積丹岬を經由して神威岬へ
 行った。この2つの岬の間が道も新しい舗装で良く、景色も良く
 風はやや追風で、最高の調子でピンピン走った。これほど気持ち
 の良い走りは初めてだ。神威岬は
 自転車を降りて約1時間歩かなければならない。しかしそれだけの
 価値は絶対にある。積丹半島へ行
 くのなら積丹岬をカットしてでも
 ここでゆっくり歩いた方がよいだ
 ろう。先端まで行く途中には「水無



水無し立岩

しの立岩、念仏トンネルなどがある。念仏トンネルは直角たゞの
 曲がっていて、真中には、落石で死亡した人の腕の骨が埋めてあ
 り、その上に小さな石が置いてあるようだ。暗くて何も見えない
 ので念仏でも唱えておけば通れるらしいという物だ。

7月21日 船には乗ってみたものの……

積丹半島を一周するには船に乗らなければならぬ。その船は1日1便で余別発12:00である。午前中は暇なので、どこまで行けるか余別より奥まで行ってみた。地図には点線で書いてあるので何とかすれば一周が可能かと考えていたが、実際には山が直接海に落ちこんでいて道は全く無く歩いても不可能であることがわかった。また余別まで戻り船に乗った。船は川目、神恵内に寄り添って岩内まで行くのだが、船賃をけちって川目で船を降りた。これが死を招いた。川目―神恵内間は道はジャリで海から離れてどんどん山に入っていくのだ。ちょっとした峠登りになってしまった。乗をしたければ神恵内まで船に乗るべきだろう。

7月22日 恐怖の昭和新山ユース

この日は昭和新山ユースに泊った。何と云っても、これほど恐ろしいユースは無いだろう。何が恐ろしいって？ ペアレント、ミーティングなどというものではない。この建物自体が恐ろしいのだ。有珠山の噴火による地震のために、滅茶苦茶になっているのだ。部屋は平行四辺形、廊下はアップダウン、外壁は棒で支えられている有様だ。そして夜中には依然として地震が感じられ、時々目がさめてしまった。(良い子の小川君は何も知らずに眠っていたようだ。) これほど恐ろしいユースが他にあってだろうか。専ら生命に関係してくるだけに怖い!

7月23日

オコタンペ湖は美しく、

支笏湖畔は運命の地だ

小川は一足先に合宿に参加するために別れて、1人のフリーランになった。美笛峠を軽く越えて支笏湖にたどりついた。そこから支笏湖畔(支笏湖の東岸の地名)へは湖の南側と北側の2本の道がある。そこでオレはオコタンペ湖のある北側の道を選んだ。湖に沿っているのにきついアップダウンの後、恵庭岳を避けるために700m程登らなければならぬ。その登りの途中にオコタンペ湖への登山道の入口がある。そこへ来るまでに結構疲れてしまっているのに片道20分程の登山道へ行くべきかどうか迷った。そしてそこには「熊が出没しますので入山しないで下さい」と書かれているのだ。この一言でヤンピにしようかと考えたが、折角ここまで来てやめるなどとは、旅をする人間として情けないとも考えた。その場所で5分間程考えに考えて(実は休憩)恐る恐る入山したのである。そして20分後、オコタンペ湖と感激の対面をした。その色は積丹半島の海の色に優るとも劣らない程美しく、支笏湖の色などは問題外であった。そこにはオレ以外には人間がいなかったようだ。何とも言いようのない最高の気分だった。そこで感動してゆっくりしたい所だが「熊」の看板に恐れて、急いで下山したのである。ところが、後になって分かったのだが、「熊」の看板はただのあどかしまの辺ではいたる所に掲示しており、大して脅えることはなかったのだ。単道を登っていくと、そこからオコタ

ンペ湖を見ることができたが、そこは人々がいるだけで、また独り感動に浸れるような所ではない。

支笏湖畔に着いてみると、そこは湖を見に来たのか人を見に来たのが分からな程だった。その日は何と日曜日だったのだ。その多勢の人の中に、中学校の同級生が店でバイトをやっていたのだ、わざわざ高松から出て来て。しかしそれを知ったのはちょうど1ヶ月後の同窓会であった。全く残念の一言に過ぎる。その日は支笏湖ユースに泊った。そこで島根から来た男2人組と知り会ったのだが、その2人とは合宿になってから、尾岱沼で再会することになるのだ。何という運命の場所だろう、この支笏湖畔は。

7月24日 札幌でのんびりお昼寝

いよいよフリーラン最後の日か来た。今晚からはみんなと合流して合宿に突入だ。朝早くユースを出ると、一番近い駅、苫小牧まで走ると即輪行し、集合地札幌へ向かった。札幌には13時過ぎに着き、集合時間は21時だ。暇は十分あるし、見る所もいっぱいあるのだが、それだけの元気が無く存っている。と言うことで、大通り公園の木陰で横になっていた。そのうちに、いつの間にかうと、うと、うと、うと、.....

終わり